

25.9.23

新報



多良木町 露地野菜

くまもと ファーマー 日記

9月1日(日) 午前6時からキュウリの収穫。成長がよくない。昨日まで1日400kg収穫できたのが100kg。形も悪い。大雨に雷。猛暑から一転した涼しき。高温続きで体力を奪われたキュウリが気候の変化についていけないのだ。「うまいキュウリを消費者に届けたい」と思っているのに、収穫が楽しくない。

9月3日(火) 午前中、県と町の職員が「天敵生物」の調査に来た。わが家では、病害虫対策としてスワルスキーカブリダニという天敵

多良木町、キュウリ・露地野菜

松浦栄一さん(44)



収穫したキュウリをかじる松浦栄一さん(多良木町)

栄養満点の「水でつくる」…朝夕、暑さに応じ補給

をハウスに放ち、農薬を減らしている。

北九州大を卒業後、東京の建設会社などで働き、10年前に就農した。地元で食べたトマトに感動し「自分もうまい野菜を作りたい」と思ったのがきっかけ。現在、多良木町久米で水稲2畝、夏秋キュウリ55畝、メ

ロン38畝、インゲン15畝を栽培。42歳の時、県農業コンクール新人王部門で優良賞。受賞以降、農地を貸してくれる人が出てきた。

9月5日(木) 台風を心配していたが影響はなくて天候が回復。ただキュウリは急に強い日差しを受ける

を起すので、しっかり観察する必要があります。

キュウリは90%が水分で「水でつくる」といわれるほど。朝夕、暑さに応じて水をまくことが大事。

9月13日(金) 地元の球磨盆地は、周りの山から球磨川に流れ込む栄養満点の水があり、いいキュウリができる。夏秋キュウリの西日本一の産地と自負。

9月6日(金) 午前10時から新品種「ゆうみ」の芽摘み。病気に強く実の付きも多い。キュウリは200を超す品種があり、新品種を導入する動きが活発。

9月10日(火) 午前6時から収穫。天候の回復とともにキュウリも成長し、1日で600kg収穫。「ゆうみ」の収穫も3日目。形がよく、おいしそう。キュウリは切って塩昆布に混ぜて食べるのがお薦め。酢の物もいろいろ楽しめる。

9月13日(金) 地元の農家と設立した農業生産法人「まつよし農園」で小野泰輔副知事の視察を受ける。農産物の生産・安全管理の国際規格「グローバルGAP」を取得し、多良木町黒肥地の計3・4畝でサトイモ、ジャガイモ、ニンジン栽培。黒肥地の土壌は灰交じりで野菜作りに向いている。持続可能な経営を模索し、攻めの農業で人吉・球磨を盛り上げたい。(県農業経営同友会会員)

次回は10月14日掲載予定